

迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

昨年末に内閣府中央防災会議において、想定される東海・東南海・南海の巨大地震の規模などの変更が発表されました。内容は想定する最大級の地震源域について、宮崎沖の日向灘の対象区域を約2倍に拡大するなどの中間報告がまとめられました。その内容には、マグニチュード（M）8.4から暫定的にマグニチュード（M）9に高めるとのこと。中央防災会議はプレート構造など最新の科学データや堆積物の調査、古文書などを基に、東海から四国沖の海底にある「南海トラフ」沿いの巨大地震について検討されました。

その結果、想定震源域・想定津波波源域が下記のように変更された。

（内陸側の領域端）

プレート深さ約30kmよりやや深い部分まで拡大

（東側の領域端）

トラフ軸から富士川河口断層帯の北端まで拡大

（南西側の領域端）

日向灘よりも更に南西方向に拡大

（トラフ軸側の領域端）

想定震源域はプレート深さ10km。

（想定津波波源域）

津波地震を考慮し深さ10kmより浅い部分も対象

さて、この結果を聞いた我々はどのように備えをすべきなのか「さっぱり判らないのが本音だ！」

では、私たち市民が考えられることを「想定」という許される枠の中で検証してみることにしよう。この検証は2012年度のグリーンだよりでシリーズ化し、皆様にお伝えしていきたいと思っています。

シリーズ「災害への想定」 Story 1

【プロローグ】

このシリーズは加古川グリーンシティにおける想定であり、全国を一律に考えたものではありません。

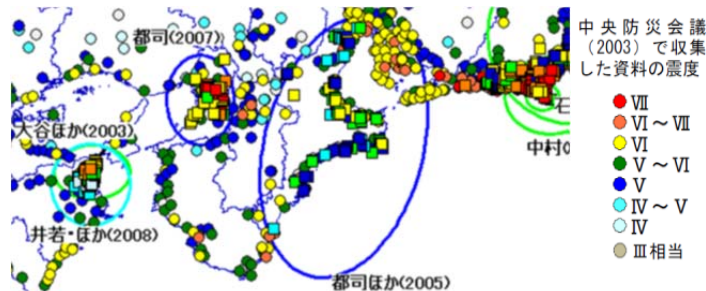
【巨大地震発生】

想定日時 2012年12月13日木曜日 13時

M9の地震が発生

各地の震度は下記の図から確認すると

加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた（阪神淡路大震災時の加古川での揺れを上回る）



新たに収集した資料の震度を加えた過去地震の震度分布図

緊急地震速報が発報。自分の携帯だけではなく、周りの人の携帯からもエリアメールの着信音が響き渡る。

「地震の揺れが加古川に到達するまで約60秒！」

さて、到達まで60秒・・・その間にできることは何？

この間に、多くの行動を起こすのは不可能と考えられます。つまり、ひとつの行動で身の安全を図る「ワン・アクション」を身につけておきましょう。

（自宅に居た場合・居間編）

普段から居間の何処の場所が一番安全かを確認しておき、速報を聞いたら即その場所へ移動しましょう。

（自宅に居た場合・台所編）

調理中、ガスコンロの前なら火を消し、安全な場所へ移動します。ガスコンロから離れていれば火を消しに行かずに安全な場所へ移動しましょう。

※自宅内にはここが一番安全だという場所（シェルター）を家族で話し合い確認しておきましょう。また、何をおいても自分の身の安全を図ることに集中する！



「5・4・3・2・1・ドーン」揺れが到達！

強い揺れが100秒程度続き、その後長周期のゆっくりした揺れが10分程度続く。当マンションでも、1階と14階の揺れる強さは全く違うものであり、一概に表現はできないが、阪神淡路大震災より大きいと考え再現から想定してみる。

（最初の強い揺れ）

花瓶が倒れ、水が溢れる。ガタガタと食器が揺れ出し、止めていない食器棚の扉が一気に開き、中の食器が飛び出す。床に落ち割れて飛び散る。家電製品が棚から落下し電気コードが引きちぎれる。本棚から本が次々に飛び出し、山積みになっていく。タンスは転倒防止をしていたために何とか倒れずに踏ん張っているようだ。子供部屋の学習機の本棚からも辞書類が落ちてきている。どこかで窓ガラスの割れる音がある。

（次のゆっくりとした揺れ）

転倒防止をしていたはずのタンスが倒れ出す。これは適切な位置にボルト固定をしていなかった原因と、突っ張りポールだけで止めていたタンスが、天井材の石膏ボードが割れてしまい強度を失ったため効き目がなくなった。冷蔵庫が底の滑車で、幸いにも転倒せず元の位置からは大きく移動。玄関では下駄箱の上のものが落下し割れ、破片が靴に被さっていく。背の高い下駄箱が倒れ、靴が飛び出して散乱する。

（次号へ続く）

阪神淡路大震災では、直接死の70%以上が「窒息・圧死」と一括りにされたが、実際には胸部や腹部を圧迫されて呼吸ができなくなる「窒息死」が圧倒的に多く、身体の厚みが変わるほどの「圧死」は1割程度であった。次の地震で生き残るためには、「わずかな空間の確保」これが生死を分ける第一段階だ！